

パロキセチン錠「ケミファ」を 服用される患者様へ

あなたがお飲みになる薬は チェック です。



パロキセチン錠
5mg「ケミファ」

NC X 5

錠剤（実物大）



パロキセチン錠
10mg「ケミファ」

NC PX 10

錠剤（実物大）



パロキセチン錠
20mg「ケミファ」

NC PRX 20

錠剤（実物大）



**お薬の十分な効果を得るためには、「飲み忘れをしないこと」、
「急に減らしたり、やめたりしないこと」が大切です。**

飲み始めの頃の注意点

- 1日1回、毎日継続的に飲むことで徐々に効いてくるお薬です。
ゆっくり増やしながらあなたにあった用量に調整していきます。
すぐに効果があらわれないからといって、勝手に飲むのをやめてしまわないように注意しましょう。
- 初期には吐き気や胃のもたれなどの症状があらわれることがあります。
しばらくがまんして服用していると自然に消失する場合がありますが、必ず主治医に相談してください。
- 眠気、めまいなどの症状が現れることがあるため、自転車の運転などには十分に注意してください。

治療期の注意点

- 毎日飲み続けることが治療のカギです。飲み忘れや、急にやめたり、減らしたりすることのないように注意してください。
- 他のお薬を飲んでいる場合や、新たに飲む場合は、主治医に相談しましょう。

飲み忘れをしないための工夫

1. お薬は、携帯しましょう
2. 通院日は、常に確認しておきましょう
3. お薬は、曜日別に小分けしましょう

中止時の注意点

- 症状をみながら、数週間～数ヶ月かけてゆっくり減らすお薬です。勝手な判断で、急にやめてしまわないようにしてください。
- 急にやめてしまった場合など、薬の作用が急になくなって、人によっては「フワフワ感」や「ムカムカ」、手足のピリピリ感、イライラなどの症状が現れる場合がありますので、注意が必要です。多くは一過性ですが、気になる症状があったら必ず主治医に相談してください。

お薬はあなたの症状に合わせて減らしていきます

お薬の減らし方の例

○パロキセチン錠を 1日40mg 服用している患者さんの場合



お薬の減らし方には個人差があります。

自分の判断で量を減らしたり急にやめてしまわないようにしてください。

これまできちんと治療してきたのですから、お薬を中止するまで、先生と相談しながら、あせらずに一歩ずつ進んでいくようにしましょう。

パロキセチン錠「ケミファ」を服用される うつ病の患者様へ

●抗うつ薬とうまく付き合うことが大切です。

うつ病の原因は「神経伝達物質のバランスの崩れ」ですから、このバランスを整える薬を服用します。

抗うつ薬にはいろいろな特性があるため、それらをよく理解して、医師の指示にしたがい、正しく服用することが、治療効果を高めるために大切です。

うつ病はよくなったり、悪くなったりを繰り返しながら徐々に快方に向うのが一般的です。少し気分がよくなったからと社会復帰をあせったり、悪くなったからといって気落ちせずに、長期戦の構えで治療を受けましょう。症状が安定しても、しばらくの間飲み続けることが重要です。勝手な判断で、通院をやめてしまったり、飲むのをやめたりしないようにしましょう。

お薬を服用する前に確認すべきこと

●18歳未満の大うつ病性障害のある人は、 医師と十分に相談してください。

18歳未満の大うつ病性障害のある人がこの薬を飲んだ場合、有効性が確認できなかったとの報告や、死んでしまいたいという気持ちを強めるという報告があります。

●次の人は、この薬を使用することはできません。

- 過去にパロキセチン錠「ケミファ」に含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある人
- MAO阻害剤〔セレギリン塩酸塩（エフピー）〕を使用している、あるいは使用を中止してから2週間以内の人
- ピモジド（オーラップ）を使用している人

● 次の人は、慎重に使う必要があります。
飲み始める前にそのことを医師または薬剤師に
教えてください。

- そううつ病の人
- 死にたいと強く思ったり考えたことがある人
- 脳に器質的な障害がある人、または統合失調症になることが考えられる人
- 衝動的な行動を起こしやすい病気を合併している人
- 過去にてんかんと診断されたことがある人
- 緑内障の人
- 抗精神病剤を使用している人
- 高齢の人
- 出血の危険性を高める薬剤を使用している人
- 出血しやすい人

● この薬には併用してはいけない薬や併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

● 24 歳以下で抗うつ剤を使用した場合、死んでしまいたいという気持ちを強めるという報告があります。24 歳以下でこの薬を使う人は医師と相談してください。

お薬を服用中に気をつけなければならないこと

■ 眠気・めまいなどの症状が現れることがあるため、自動車の運転などの危険を伴う機械を操作する時は、十分に注意してください。これらの症状は、飲みはじめに多く見られます。

■ うつ病やうつ状態の人は死んでしまいたいと感じることがあります。この薬を飲んでいる間、特に飲みはじめや飲む量を変更した時に、不安感が強くなり死にたいと思うなど症状が悪くなるがあるので、このような症状があらわれた場合は、医師に相談してください。また、パニック障害、強迫性障害の人も同様に注意してください。

.....

■ ご家族の方は、死にたいという気持ちになる、興奮しやすい、攻撃的になる、ちょっとした刺激で気持ちの変調を来すなどの患者さんの行動の変化やうつ症状などのもともある病気の症状が悪化する危険性について医師から十分に理解できるまで説明を受け、患者さんの状態の変化について観察し、変化がみられた場合には、医師に連絡してください。また、患者さんご自身も病状に変化があったと感じた場合には、ご家族の方にも伝えるようにしてください。

.....

■ 不安になる、いらいらする、あせる、興奮しやすい、発作的にパニック状態になる、ちょっとした刺激で気持ちや体の変調を来す、敵意を持つ、攻撃的になる、衝動的に行動する、じっとしていることができない、などの症状があらわれることがあります。これらの症状があらわれた場合は、医師に相談してください。この薬との関連性は明らかではありませんが、これらの症状があらわれた人の中には、うつ症状などのもともある病気の症状が悪化する場合や、死んでしまいたいと感じたり、他人に対して危害を加えたりする場合があります。

.....

■ 若年成人（18～30歳）で、特に大うつ病性障害の人がこの薬を使用した場合、自殺する危険性が高くなるという報告があります。死にたいという気持ちになったら医師と十分に相談してください。

■ この薬は、飲むのを終了する場合には、時間をかけて、少しずつ量を減らしてゆきます。服用の中止は必ず医師の指示に従ってください。自分の判断で飲むのを中止してはいけません。医師の指示どおりに飲んでください。

.....

■ この薬は、飲むのを中止したり、量を減らした場合に、めまい・汗をかく・吐き気などの症状が現れることがあります。これらの症状の多くは、飲むのを中止してから数日以内に現れ、2週間程度で治まります。症状の程度は、ほとんどが軽いものですが、我慢できない症状が現れた場合は、医師に相談してください。

.....

■ この薬を使用していたお母さんから生まれた赤ちゃんに、先天異常（特に心臓の奇形など）や肺高血圧症（皮膚や粘膜が青紫色になる、呼吸困難など）のリスクが増えるという報告、薬が体から排泄される過程で起こる症状（ぐったりしている、手足をブルブルふったりする、けいれんなど）があらわれたとの報告があるので、妊娠または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。

.....

■ 授乳を避けてください。

.....

■ 他の医師を受診する場合や薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを伝えてください。